応用撮影　第3章

記録モードの変更 52
文字モード .... 文字をきれいに記録する 52
連写モード .... 連続して記録する 53
フラッシュモードの変更 55
発光禁止モード .... フラッシュを発光しないで撮影する 56
オートモード .... フラッシュを自動発光させて撮影する 57
強制発光モード .... フラッシュを必ず発光させて撮影する 58
スローシンクロモード .... 背景の雰囲気を活かして被写体をきれいに撮影する 59
露出補正の設定 60
露出補正を設定する 60
ホワイトバランスモードの変更 62
屋外モード 63
曇天モード 64
白熱灯モード 65
蛍光灯モード 66
いろいろな撮影機能 67
セルフタイマー撮影 .... セルフタイマーを使って撮影する 67
フォーカスロック撮影 . 液晶モニターの 端に見える被写体にピントを合わせる 68
マニュアルフォーカス撮影 .... 手動でピントを合わせる 70
日付入れ撮影 .... 日付を入れて撮影する 71
赤目モード撮影 .... 赤目を軽減して撮影する 72
モノトーン撮影 .... 白黒やセピアで撮影する 73
インターバル撮影 .... 設定した時間間隔で連続して撮影する 74
マクロ撮影（接写） .... 近距離で撮影する 76
Ｓモード撮影 ... 暗いところでシャッタースピードを速めて撮影する 77

記録モードの変更

ここでは、記録モードの変更のしかたについて説明します。

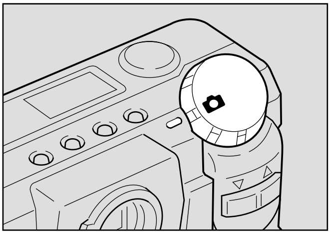
補足 ・液晶モニターに表示される記録モードの表示については、「記録モードを選択する」P.44 をご覧ください。

文字モード

文字を記録します。文字をきれいに記録できるように、黒い部分をはっきり黒くし、 周りの色合いを緩和させて記録します。

❶ モードダイヤルを [📷] に合わせ、MENU ボタンを押します。

記録メニューが表示されます。



補足 ・ 操作を取り消すときは、MENU ボタンを押します。

❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［記録モード］を選びます。



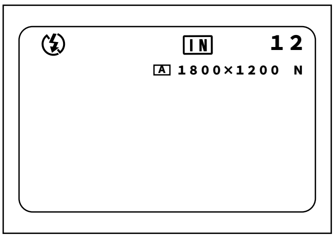
❸ ENTER ボタンを押して、[A] マークを選びます。

文字モードが設定されます。

MENU ボタンを押して、記録メニューを終了します。



液晶モニターに記録モードが表示されます。
レリーズボタンを押して撮影します。



補足 ・ 文字モードではフラッシュは発光しません。
・ 記録モードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→ P.108「カメラの設定内容を記憶する」

記録を中止するとき

レリーズボタンを押し切ると、液晶モニターに撮影画像が表示されます。表示されている間は、次の方法で記録を中止できます。

・MENU ボタンを押します。記録取消のメッセージが表示されるので、ENTER ボタンを押します。

モードを解除するには

同様の操作を行い、手順❸で他のモードに切り替えます。

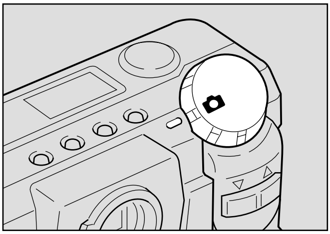
連写モード

レリーズボタンを押している間、連続的に撮影します。レリーズボタンを押したときの状態でフォーカスを固定し、約１秒に１コマの連続撮影を行います。シャッターチャンスを逃がすことなく撮影したいときに便利です。

❶ モードダイヤルを [📷] に合わせ、MENU ボタンを押します。

記録メニューが表示されます。

補足 ・操作を取り消すときは、MENU ボタンを押します。



❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［記録モード］を選びます。



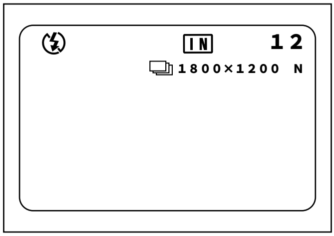
❸ ENTER ボタンを押して、⧉マークを選びます。

連写モードが設定されます。

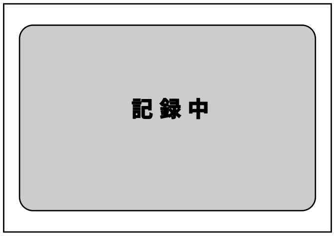
MENU ボタンを押して、記録メニューを終了します。



液晶モニターに記録モードが表示されます。



レリーズボタンを押し続けると、約１秒ごとに１コマの連続撮影ができます。
レリーズボタンから指を離すと連続撮影は停止し、撮影画像が自動的に書き込まれます。液晶モニターには、「記録中」のメッセージが表示されます。



重要
- 連写モードでは、レリーズボタンを押したときの状態で、フォーカスや露出補正を固定します。
- 連続撮影のときは、フラッシュは発光しません。

補足
- 画質モードによって、連続撮影できる最大枚数は次のとおりです。

画素数	Fモード	Nモード	Eモード
1800 ×1200	2枚	5枚	9枚
900 ×600	7枚	14枚	28枚

＊１回に連続して撮影できる最大枚数です。スマートメディアや内蔵メモリーの残枚数によって、再度連続撮影することができます。
- 記録したファイル名の合計が9999枚になった場合は、連写撮影はできません。記録先のスマートメディアまたは内蔵メモリーをフォーマットしてから連続撮影してください。
- 連写モードでは、撮影中は液晶モニターに撮影画像は表示されません。
- 記録モードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。
→P.108「カメラの設定内容を記憶する」

モードを解除するには

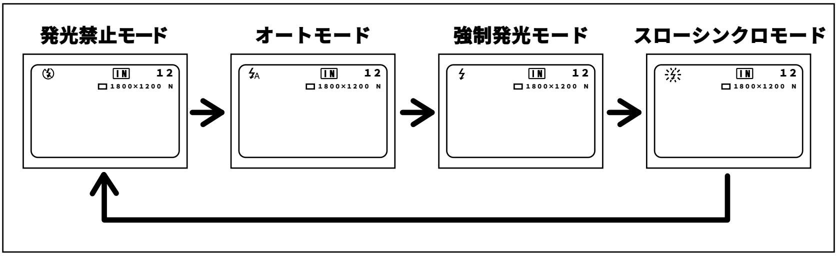
同様の操作を行い、手順❸で他のモードに切り替えます。

フラッシュモードの変更

ここではフラッシュモードの変更のしかたについて説明します。撮影状況に合わせてモードを切り替えてお使いください。

■モード表示の 移り変わり

フラッシュモードを切り替えると、モード表示は次のように表示されます。



＊初期設定は、発光禁止モードになっています。

重要

・近い被写体（約0.4m以下）をフラッシュ撮影すると、フラッシュの光が赤く写ることがあります。また、露出オーバーになるので、被写体がが白っぽく撮影されることがあります。このようなときは、発光禁止モードに設定してください。

補足

・文字モードや連写モードでは、フラッシュは発光しません。
・次のホワイトバランスモードでは、フラッシュは発光しません。
　屋外モード、曇天モード、白熱灯モード、蛍光灯モード
・フラッシュモードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.108「カメラの設定内容を記憶する」
・フラッシュを利用して撮影するとき、液晶モニターが暗く見える場合は、広角側で撮影してください。望遠側ではピントが合いにくいことがあります。
・赤目モードを利用すると、赤目を軽減して撮影できます。→P.72「赤目モード撮影」

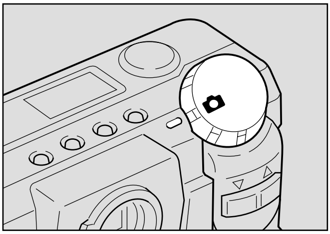
フラッシュの光が届く距離

日中にフラッシュを発光させて（日中シンクロ）撮影する場合、撮影距離は望遠で約0.4～3.0m、広角で約0.4～3.4mです。被写体にフラッシュの光が届かないと、被写体が暗く撮影されます。

発光禁止モード

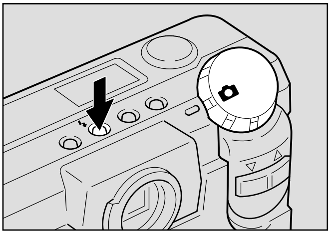
このモードを使用すると、暗いところでもフラッシュは発光しません。フラッシュ撮影が禁止されているところで撮影するときや、室内の照明を利用して撮影したいときに使用します。

❶ **モードダイヤルを［📷］に合わせます。**

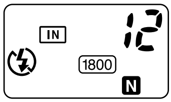


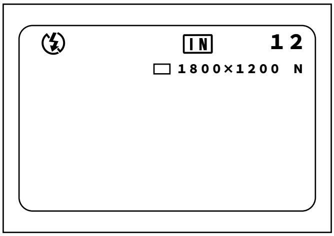
❷ **フラッシュボタンを押して⚡マークを選びます。**

発光禁止モードに設定されます。



液晶パネルや液晶モニターにフラッシュモードが表示されます。
レリーズボタンを押すと、フラッシュを発光しないで撮影します。





重要

・暗いところでは自動的にシャッタースピードが遅くなります。カメラブレが起きないようにしっかり構えるか、三脚を使用して撮影してください。特に望遠側（[🌲]）では、カメラブレにご注意ください。

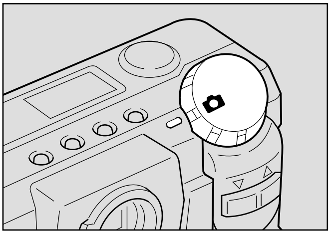
モードを解除するには

フラッシュボタンを押して、他のモードに切り替えます。

オートモード

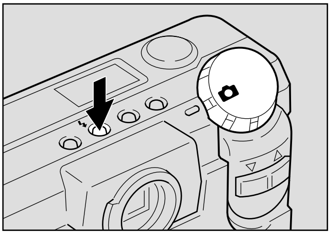
暗い場所や逆光のときに、自動的にフラッシュを発光します。撮影状況に合わせて撮影できます。

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせます。

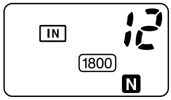


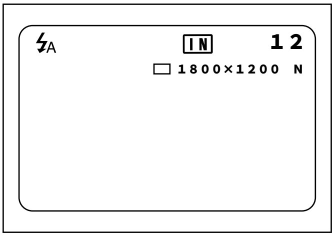
❷ フラッシュボタンを押して ⚡A マークを選びます。

オートモードに設定されます。



オートモードの⚡Aマークは、液晶モニターにのみ表示されます。液晶パネルでは、マークが表示されていないときにオートモードになります。





レリーズボタンを押すと、暗い場所や逆光のときに自動的にフラッシュを発光して撮影します。フラッシュが発光するときは、レリーズボタンを軽く押したときにフラッシュランプ（赤）が点灯します。

補足
・フラッシュ充電中はフラッシュランプが点滅し、液晶モニターの表示が消えます。このときは撮影できません。

重要
・被写体までの距離が約0.4mより近い距離では、露出オーバーになるため被写体が白っぽく撮影されることがあります。このようなときは、発光禁止モードに設定してください。

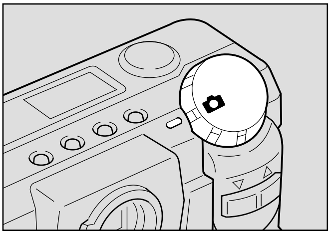
モードを解除するには

フラッシュボタンを押して、他のモードに切り替えます。

強制発光モード

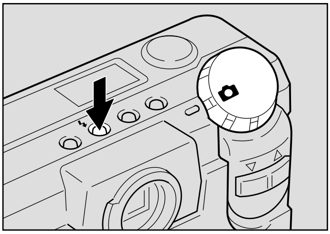
逆光や強い光の下で人物を撮影すると、顔に強い影ができることがあります。このような影をやわらげたいときに、このモードを使用します。明るさに関係なく、常にフラッシュが発光します。

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせます。

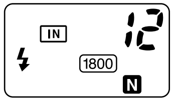


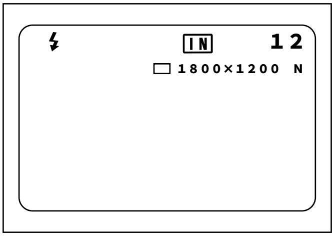
❷ フラッシュボタンを押して ϟ マークを点灯させます。

強制発光モードに設定されます。



液晶パネルや液晶モニターにフラッシュモードが表示されます。
レリーズボタンを押すと、フラッシュを発光して撮影します。レリーズボタンを軽く押したときにフラッシュランプ（赤）が点灯します。





補足 ・フラッシュ充電中はフラッシュランプが点滅し、液晶モニターの表示が消えます。このときは撮影できません。

重要 ・被写体までの距離が約0.4mより近い距離では、露出オーバーになるため被写体が白っぽく撮影されることがあります。このようなときは発光禁止モードに設定してください。

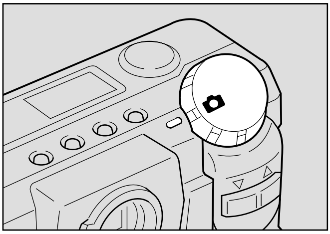
モードを解除するには

フラッシュボタンを押して、他のモードに切り替えます。

スローシンクロモード

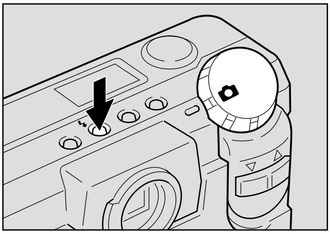
フラッシュを発光して撮影する際、被写体にフラッシュの光があたり、背景も遅いシャッタースピードで撮影できます。室内パーティーなどの撮影で、背景の雰囲気を活かして被写体をきれいに撮影したいときに使用すると、フラッシュを発光させたときに、背景だけが暗くなるのを軽減します。

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせます。

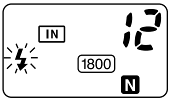


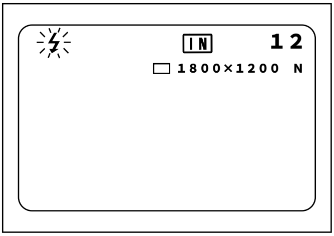
❷ フラッシュボタンを押して ϟ マークを点滅させます。

スローシンクロモードに設定されます。



液晶パネルや液晶モニターにフラッシュモードが表示されます。
レリーズボタンを押すと、フラッシュを発光してスローシンクロモードで撮影します。レリーズボタンを軽く押したときにフラッシュランプ（赤）が点灯します。





補足 ・フラッシュ充電中はフラッシュランプが点滅し、液晶モニターの表示が消えます。このときは撮影できません。

重要
- 被写体までの距離が約0.4mより近い距離では、露出オーバーになるため被写体が白っぽく撮影されることがあります。このようなときは発光禁止モードに設定してください。
- 暗いところでは、自動的にシャッタースピードが遅くなります。カメラブレが起きないようにしっかり構えるか、三脚を使用して撮影してください。特に望遠側（[🌲]）では、カメラブレにご注意ください。

モードを解除するには

フラッシュボタンを押して、他のモードに切り替えます。

露出補正の設定

通常、撮影範囲の中央に被写体があると自動で逆光補正を行うので、このまま撮影することができます。しかし、背景と被写体との間に極端な明暗差がある場合、被写体の露出がアンダー（暗い）やオーバー（白っぽい）になってしまいます。このようなときに露出補正をします。また、意図的に露出アンダーやオーバーな撮影をしたいときにも使用できます。

●露出補正の範囲

± 2.0EV（0.5EV ステップで設定）

●逆光撮影の場合

背景が明るいので、被写体は露出アンダーになってしまいます。このようなときは＋側に数値を増やして、露出を補正します。

重要

・逆光のとき、撮影範囲の中央に被写体がないときには、カメラは逆光状態と判断しません。露出補正をしてください。

●白っぽい画面を写す場合

全体に白っぽい画面を写すときは、全体的に露出アンダーになり、人物などは暗く、白いものはグレーのように写ってしまいます。このようなときは＋側に数値を増やして、露出を補正します。

●黒っぽい画面を写す場合

全体に黒っぽい画面を写すときは、全体的に露出オーバーになり、人物などは白く、黒いものはグレーのように写ってしまいます。このようなときは－側に数値を増やして、露出を補正します。スポットライトが当たった人物を写すときなども同様にします。

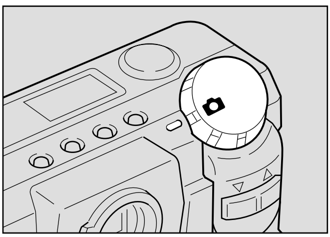
露出補正を設定する

露出補正を設定します。

❶ モードダイヤルを [📷] に合わせ、MENU ボタンを押します。

記録メニューが表示されます。

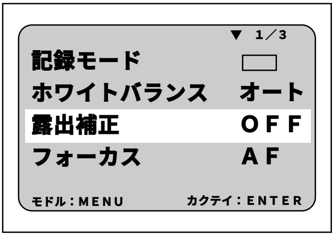
補足 ・ 操作を取り消すときは、MENU ボタンを押します。



❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［露出補正］を選び、ENTER ボタンを押します。

露出補正の設定メニューが表示されます。

補足　・操作を取り消すときは、MENU ボタンを押します。記録メニューに戻ります。



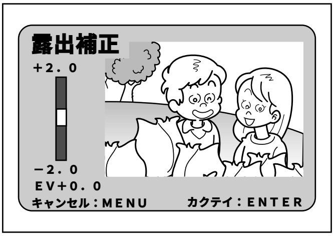
❸ ▼ボタンや▲ボタンを押して、補正値を変更します。

補正値を「0.5EV」進める

▲（[]）ボタンを押します。ボタンを押し続けると早く動きます。

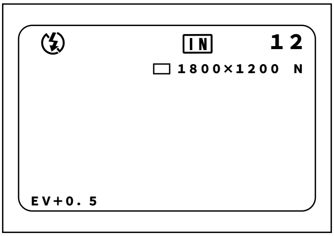
補正値を「0.5EV」戻す

▼（[]）ボタンを押します。ボタンを押し続けると早く動きます。



❹ レリーズボタンを押して撮影します。

レリーズボタンを軽く押すと（半押し状態）、通常の表示に変わります。レリーズボタンを押しきり撮影します。



撮影が終了すると設定メニューに戻ります。変更した補正値を確定する場合はENTERボタン、キャンセルする場合はMENU ボタンを押して記録メニューに戻ります。再び MENU ボタンを押して記録メニューを終了します。

設定を解除するには

同様の操作を行い、手順❸で補正値を± 0.0 にします。

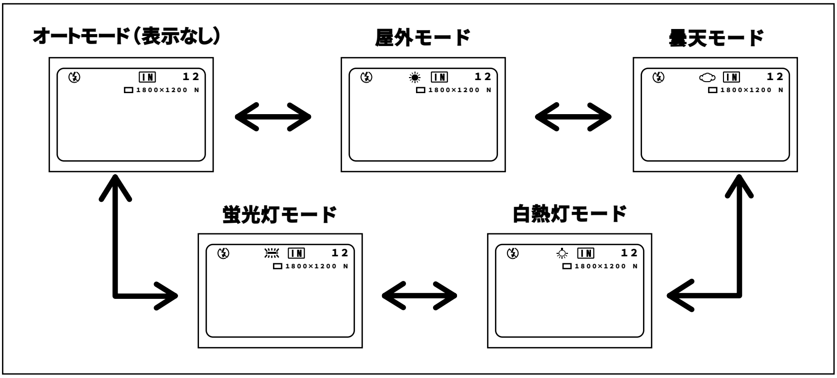
補足　・カメラの電源を切ると、設定した補正値は解除されます。露出補正の設定内容を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.108「カメラの設定内容を記憶する」

ホワイトバランスモードの変更

ホワイトバランスモードは、どんな光源の下でも自然の色合いで撮影できるようホワイトバランスを調整するための機能です。通常はオートモードで撮影します。
オートモードのときは、どんな光源の下でも白いものを白く撮影するよう、白色系の部分を基準にホワイトバランスを自動的に調整しています。そのため、被写体に白色系の部分が少ない場合や暗い場合は、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときに、ホワイトバランスモードを変更して撮影してください。

■モード表示の移り変わり

ホワイトバランスモードを切り替えると、モード表示は次のように表示されます。



＊初期設定は、オートモードになっています。

オートホワイトバランスの苦手な被写体

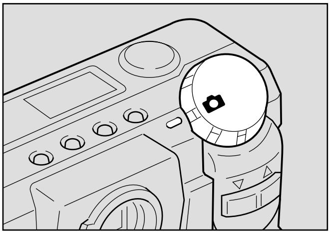
・単一色な被写体
・複数の光源のある被写体

補足
・オートモードの場合、被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
・ホワイトバランスモードは、記録モード時のみ設定できます。再生モードでは設定できません。
・次のホワイトバランスモードでは、フラッシュは発光しません。
屋外モード、曇天モード、白熱灯モード、蛍光灯モード
・ホワイトバランスモードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→P.108「カメラの設定内容を記憶する」

■設定メニューを表示する

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENUボタンを押します。

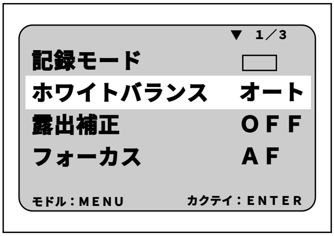
記録メニューが表示されます。



〈補足〉・操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。

❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［ホワイトバランス］を選び、ENTERボタンを押します。

ホワイトバランスの設定メニューが表示されます。



〈補足〉・操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。記録メニューに戻ります。

●ホワイトバランスモードを切り替えるには

ホワイトバランスモードは、表示された設定メニューで切り替えます。各モードの項目をご覧ください。

屋外モード→ P.63　　曇天モード→ P.64
白熱灯モード→ P.65　　蛍光灯モード→ P.66

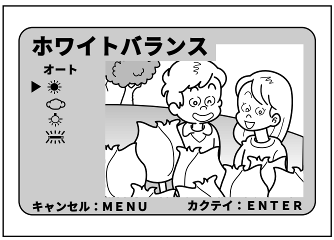
屋外モード

屋外で撮影する場合、オートホワイトバランスが合いにくい被写体を撮影するときに使用します。

〈補足〉・ホワイトバランスモードの設定メニューから操作します。→P.63「■設定メニューを表示する」

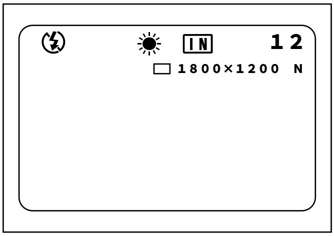
❶ ▼ボタンや▲ボタンを押して、☀マークを選びます。

屋外モードに設定されます。



❷ レリーズボタンを押して撮影します。

レリーズボタンを軽く押すと（半押し状態）、通常の表示に変わります。レリーズボタンを押しきり撮影します。
撮影が終了すると設定メニューに戻ります。設定したモードを確定する場合はENTERボタン、キャンセルする場合はMENUボタンを押して記録メニューに戻ります。再びMENUボタンを押して記録メニューを終了します。



重要
・同じ被写体を撮影しても天候により色の度合いが異なります。

モードを解除するには
設定メニューで、▼ボタンや▲ボタンを押してオートに切り替えます。

曇天モード

曇天の下で撮影する場合、オートホワイトバランスが合いにくい被写体を撮影するときに使用します。

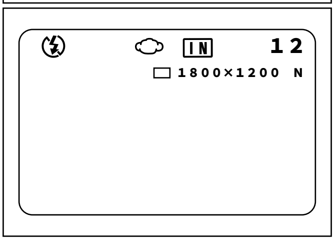
補足
・ホワイトバランスモードの設定メニューから操作します。→P.63「■設定メニューを表示する」

❶ ▼ボタンや▲ボタンを押して、☁マークを選びます。

曇天モードに設定されます。



❷ レリーズボタンを押して撮影します。



レリーズボタンを軽く押すと（半押し状態）、通常の表示に変わります。レリーズボタンを押しきり撮影します。
撮影が終了すると設定メニューに戻ります。設定したモードを確定する場合はENTERボタン、キャンセルする場合はMENUボタンを押して記録メニューに戻ります。再びMENUボタンを押して記録メニューを終了します。

重要
・同じ被写体を撮影しても天候により色の度合いが異なります。

モードを解除するには

設定メニューで、▼ボタンや▲ボタンを押してオートに切り替えます。

白熱灯モード

白熱灯の下で撮影する場合、オートホワイトバランスが合いにくい被写体を撮影するときに使用します。

補足
・ホワイトバランスモードの設定メニューから操作します。→P.63「■設定メニューを表示する」

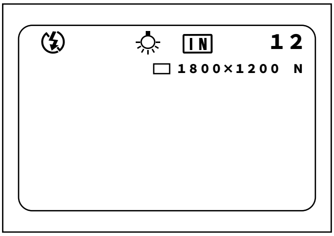
❶ ▼ボタンや▲ボタンを押して、☼マークを選びます。

白熱灯モードに設定されます。



❷ レリーズボタンを押して撮影します。

レリーズボタンを軽く押すと（半押し状態）、通常の表示に変わります。レリーズボタンを押しきり撮影します。
撮影が終了すると設定メニューに戻ります。設定したモードを確定する場合はENTERボタン、キャンセルする場合はMENUボタンを押して記録メニューに戻ります。再びMENUボタンを押して記録メニューを終了します。



重要
・同じ被写体を撮影しても、光源（白熱灯）の種類により色の度合いが異なります。

モードを解除するには

設定メニューで、▼ボタンや▲ボタンを押してオートに切り替えます。

蛍光灯モード

蛍光灯の下で撮影する場合、オートホワイトバランスが合いにくい被写体を撮影するときに使用します。

補足 ・ホワイトバランスモードの設定メニューから操作します。→P.63「■設定メニューを表示する」

❶ **▼ボタンや▲ボタンを押して、蛍光灯マークを選びます。**

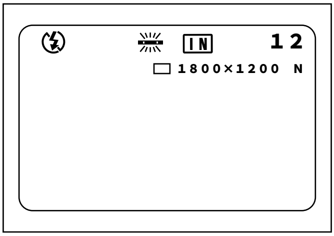
蛍光灯モードに設定されます。



❷ **レリーズボタンを押して撮影します。**

レリーズボタンを軽く押すと（半押し状態）、通常の表示に変わります。レリーズボタンを押しきり撮影します。

撮影が終了すると設定メニューに戻ります。設定したモードを確定する場合はENTERボタン、キャンセルする場合はMENUボタンを押して記録メニューに戻ります。再びMENUボタンを押して記録メニューを終了します。



重要 ・同じ被写体を撮影しても、光源（蛍光灯）の種類により色の度合いが異なります。

モードを解除するには

設定メニューで、▼ボタンや▲ボタンを押してオートに切り替えます。

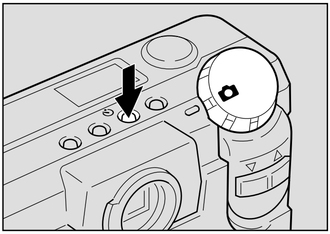
いろいろな撮影機能

このカメラは、基本的な撮影のほかにモードを設定することによって、いろいろな撮影ができます。

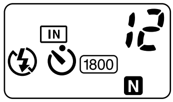
セルフタイマー撮影

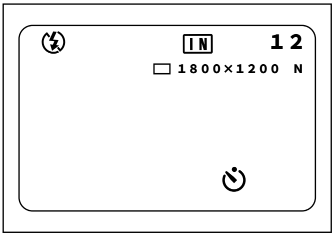
撮影者自身も入った記念撮影などを行うときにセルフタイマーを使用すると便利です。セルフタイマー撮影のときは、カメラを三脚や水平な台の上に固定してください。

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせ、セルフタイマーボタンを押します。
セルフタイマーが設定されます。

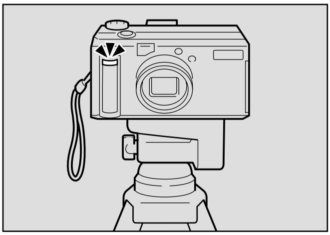


液晶パネルや液晶モニターにセルフタイマーが表示されます。





❷ 構図を決め、カメラを固定したら、レリーズボタンを押します。
セルフタイマーランプが点灯し、セルフタイマーがスタートします。約10秒後にシャッターが切れます。シャッターが切れる約2秒前からセルフタイマーランプが点滅に変わり、「ピピピピッ」というブザー音が鳴ります。
シャッターが切れると、モードが解除されます。



補足 ・フラッシュが充電中のときは、充電が完了してからセルフタイマー撮影を開始します。
・記録モードから他のモードに切り替えたり、電源スイッチをスライドするとセルフタイマーが解除されます。

コラム **遠隔操作について**
離れた位置や固定した位置にカメラを設置してお使いになるときは、リモートコントローラー（別売り）と組み合わせてお使いください。

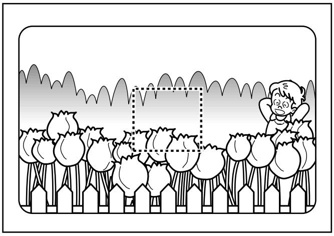
フォーカスロック撮影

通常は、ファインダーや液晶モニターのオートフォーカス範囲に見える被写体にピントが合います。ピントを合わせたい被写体がこの条件に合わない場合、その被写体にはピントが合わずボケてしまうことがあります。写したいものに確実にピントを合わせたいときは、フォーカスロックで撮影します。

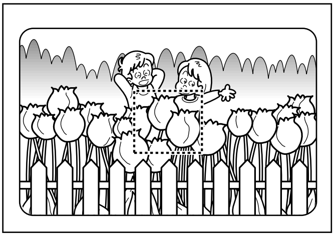
参照 P.47「被写体の位置を確認する」

■このようなときにお使いください

ピントを合わせたい被写体が、オートフォーカス範囲にないときは、背景にピントが合い、人物はボケてしまいます。

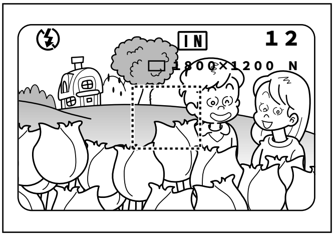


ピントを合わせたい被写体以外のものが、オートフォーカス範囲のほとんどを占めるときは、花にピントが合い、人物はボケてしまいます。

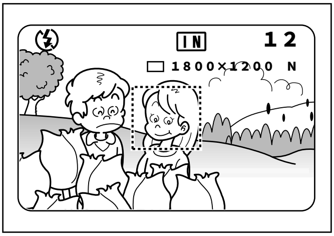


■撮影のしかた

❶▼（[ ]）ボタンや▲（[ ]）ボタンを押して、被写体の大きさを決めます。

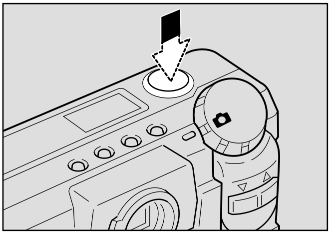


❷ピントを合わせたい被写体に、オートフォーカス範囲を合わせます。

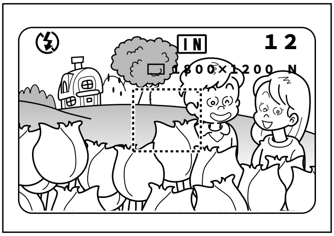


❸レリーズボタンを軽く押して、指をその位置で止めます。

この時点でピントが固定され、オートフォーカスランプ（緑）が点灯します。



❹指を止めたままカメラを動かして構図を決め、レリーズボタンを静かに押しきります。



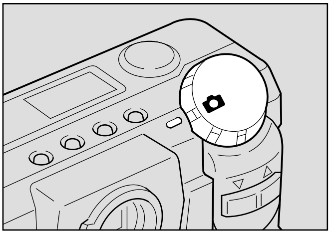
補足 ・手動でピントを合わせながら、撮影（マニュアルフォーカス）することもできます。→P.70「マニュアルフォーカス撮影」

マニュアルフォーカス撮影

マニュアルフォーカス撮影は、被写体にピントが合わないとき、手動でピントを合わせながら撮影できます。

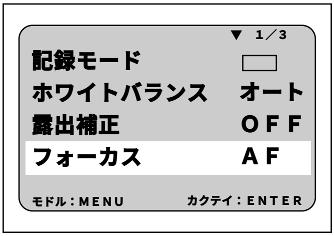
❶ モードダイヤルを［ ］に合わせ、MENUボタンを押します。

記録メニューが表示されます。



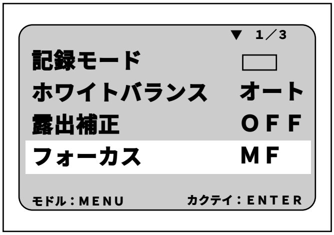
補足　・ 操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。

❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［フォーカス］を選びます。



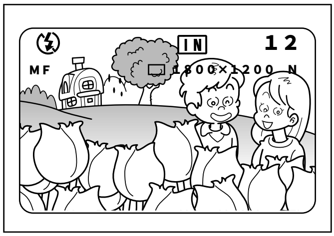
❸ ENTERボタンを押して［MF］を選び、MENUボタンを押します。

マニュアルフォーカスが設定されます。



❹ ▼ボタンや▲ボタンを押してピントを合わせ、レリーズボタンを押して撮影します。

被写体の大きさを変えたいときは、レリーズボタンを軽く押しながら（半押し状態）、▼（［ ］）ボタンや▲（［ ］）ボタンを押します。



モードを解除するには

同様の操作を行い、手順❸のフォーカスで［AF］を選びます。

日付入れ撮影

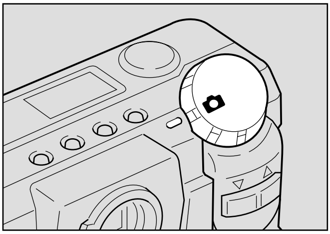
日付を入れて撮影するときに使用します。

〈補足〉・SET UP メニューで日付を設定していない場合は、機能しません。日付を設定してください。また、日付の表示形式は、日付設定で選択した表示形式になります。→ P.34「日付・時刻を合わせる」

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENU ボタンを押します。

記録メニューが表示されます。

〈補足〉・ 操作を取り消すときは、MENU ボタンを押します。



❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［日付入れ撮影］を選びます。



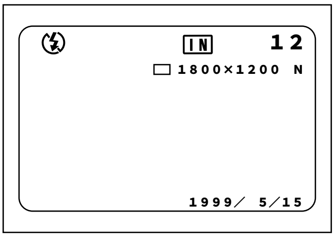
❸ ENTERボタンを押して［日付］または［日時］を選び、MENU ボタンを押します。

日付のときは年月日（1999/5/15）を、日時のときは年月日と時刻（1999/5/15 10：12）が表示されます。

日付入れ撮影が設定されます。



❹ レリーズボタンを押して撮影します。



モードを解除するには

同様の操作を行い、手順❸の日付入れ撮影で［OFF］を選びます。

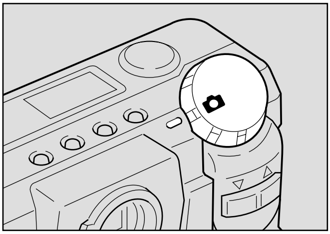
〈補足〉・日付入れ撮影の設定を保持するときは、モード保持を設定してください。→ P.108「カメラの設定内容を記憶する」

赤目モード撮影

暗いところでフラッシュが発光したとき、目が赤く写ることがあります。この現象を「赤目」といいます。赤目を軽減したいときに、このモードを使用します。シャッターが切れる前にフラッシュが数回発光し、これにより赤目が軽減されます。

❶ モードダイヤルを[📷]に合わせ、MENUボタンを押します。

記録メニューが表示されます。



補足 ・操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。

❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して、👁マークを選びます。



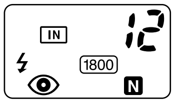
❸ ENTERボタンを押して［ON］を選び、MENUボタンを押します。

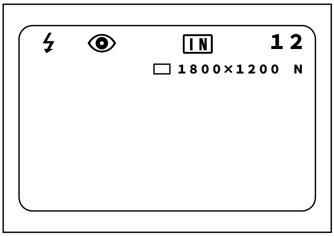
赤目モードが設定されます。



❹ レリーズボタンを押して撮影します。

レリーズボタンを押すと、フラッシュが数回連続して予備発光したあと、本発光してシャッターが切れます。





重要
・レリーズボタンを押してからシャッターが切れるまで、約１秒かかります。カメラをしっかりと構えて撮影してください。

モードを解除するには

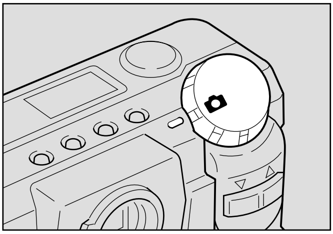
同様の操作を行い、手順❸の赤目モードで［OFF］を選びます。

モノトーン撮影

白黒またはセピアで撮影します。

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENUボタンを押します。

記録メニューが表示されます。



補足
・操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。

❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［モノトーンモード］を選びます。

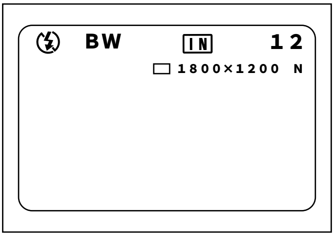


❸ ENTERボタンを押して［B&W］または［SE］を選び、MENUボタンを押します。

白黒で撮影するときは［B&W］、セピアで撮影するときは［SE］を選びます。
モノトーンモードが設定されます。



❹ レリーズボタンを押して撮影します。



補足
・モノトーンモードを選択すると、ホワイトバランスモードは機能しません。

モードを解除するには

同様の操作を行い、手順❸のモノトーンモードで［OFF］を選びます。

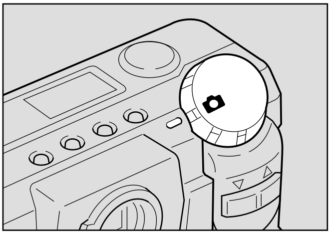
インターバル撮影

設定した時間間隔で自動的に撮影します。時間間隔は30秒〜3時間00分00秒の範囲で、30秒間隔で設定します。例えば、時間間隔を1時間に設定すると、1時間ごとにシャッターが切れ、記録先の内蔵メモリーまたはスマートメディアの容量がなくなるまで連続して撮影します。

重要
・インターバル撮影を行う際、スマートメディアや内蔵メモリーの撮影可能枚数を確認してから設定してください。
・インターバル撮影開始後、24時間でオートパワーオフが働きます。

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENUボタンを押します。

記録メニューが表示されます。



・操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。

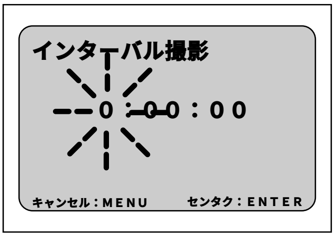
❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［インターバル撮影］を選び、ENTERボタンを押します。

インターバル撮影の設定メニューが表示されます。



補足 ・操作を取り消すときは、MENUボタンを押します。記録メニューに戻ります。

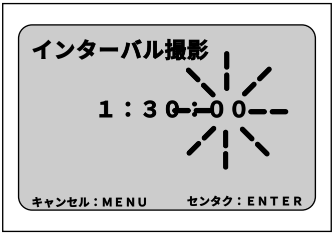
❸ ENTERボタンを押して、設定したい部分を点滅させます。



補足 ・ENTERボタンを押すたびに、時間から分→秒の順番で点滅します。

❹ ▼ボタンや▲ボタンを押して、点滅している数字を変更します。

手順❸、❹の操作を繰り返して、必要な部分を設定します。30 秒間隔で設定します。



数字を進める

▲（[ ]）ボタンを押します。ボタンを押し続けると早く動きます。

数字を戻す

▼（[ ]）ボタンを押します。ボタンを押し続けると早く動きます。

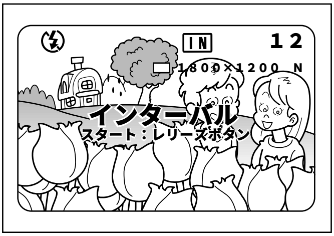
❺ 秒を合わせたあと、もう一度 ENTER ボタンを押します。

インターバルタイマーが設定され、記録メニューに戻ります。



❻ MENU ボタンを押します。

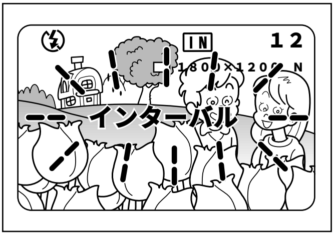
記録メニューが終了し、通常の画面に戻ります。画面には「インターバル」の文字が点灯します。



❼ レリーズボタンを押します。

最初の 1 枚が撮影され、これ以降、設定した時間間隔で撮影されます。

インターバルタイマー撮影中は、「インターバル」の文字が点滅します。内蔵メモリーまたはスマートメディアの容量がなくなると、撮影を終了します。



補足
・画質モードやフラッシュモードの設定によっては、設定した時間より撮影間隔が長くなる場合があります。
・インターバルタイマー撮影では、AC アダプター（別売り）をご利用ください。

設定を解除するには

「インターバル」が点灯しているときは、次のいずれかの方法で設定を解除できます。
・同様の操作を行い、インターバルタイマーを［0:00:00］にします。
・電源スイッチをスライドします。
・モードダイヤルを回して、他のモードに切り替えます。

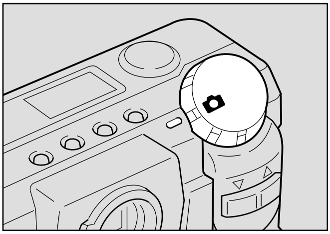
撮影を中止するとき

インターバルタイマー撮影を行っている間は、「インターバル」が点滅します。次のいずれかの方法で撮影を中止できます。
・電源スイッチをスライドして電源を切ります。
・モードダイヤルを回して、他のモードに切り替えます。

マクロ撮影（接写）

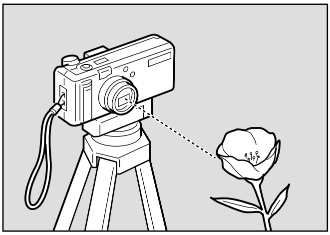
被写体に近づいてクローズアップで撮影することをマクロ撮影といいます。レンズをもっとも広角側にしたとき、約 4 cm まで自動的にマクロ撮影できます。レンズがこれ以外のときは、約 40cm まで自動的にマクロ撮影できます。

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせます。



❷ 被写体に近づいて構図を決め、レリーズボタンを軽く押してピントを合わせます。

❸ レリーズボタンを静かに押し切って撮影します。



重要

・マクロ撮影ではピント合わせの範囲がせまいため、カメラが動くとピントが外れることがあります。カメラが動かないように、三脚などでしっかりとカメラを固定して撮影してください。
・フラッシュ撮影すると、フラッシュの光が赤く写ることがあります。また、露出オーバーになるので、白っぽくなることがあります。
・ファインダーでの視野と撮影される範囲が大きくずれますので、液晶モニターまたはカメラをテレビに接続して、撮影範囲を確認しながら撮影してください。

コラム

マクロ撮影の範囲について
被写体までの距離が約４ cm ～約 40cm の間は、マクロ領域になります。

レリーズボタンについて
三脚などでカメラを固定したためレリーズボタンが押しにくいときは、リモートコントローラー（別売り）を使用すると便利です。

Ｓモード撮影

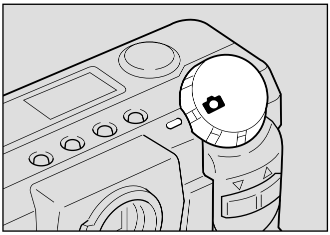
暗いときにシャッタースピードを速くするモードです。暗い被写体に向けてレリーズボタンを軽く押したとき、液晶モニターに「スローシャッター」と表示された場合に利用すると、カメラブレを軽減する効果があります。

重要

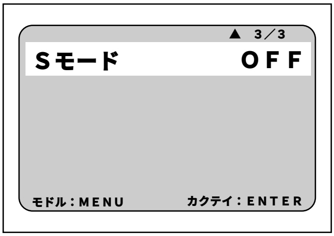
・Ｓモードで撮影したファイルは、多少ノイズが入る場合があります。

❶ モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENU ボタンを押します。
記録メニューが表示されます。

補足 ・操作を取り消すときは、MENU ボタンを押します。

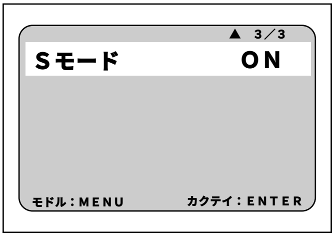


❷ ▼ボタンや▲ボタンを押して［Sモード］を選びます。



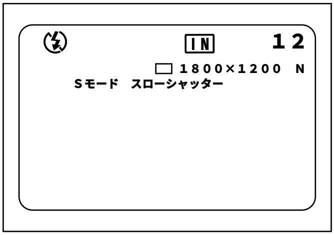
❸ ENTERボタンを押して［ON］を選び、MENUボタンを押します。

Sモードが設定されます。



❹ レリーズボタンを押して撮影します。

被写体の明るさによって、Sモードで撮影するかどうかカメラが自動的に判断します。
レリーズボタンを軽く押し、「Sモード スローシャッター」と表示されたときは、Sモード撮影になります。



補足 ・レリーズボタンを押したあとに、「ピッ」というブザーが鳴る前にカメラを動かすと、手ブレすることがあります。

モードを解除するには

同様の操作を行い、手順❸のSモードで［OFF］を選びます。

補足 ・Sモードは、フラッシュ発光禁止のときのみ機能します。
・Sモードの設定を保持するときは、モード保持を設定してください。
→P.108「カメラの設定内容を記憶する」